THE RADISSON ROYAL HOTEL, MOSCOW
ラディソン ロイヤル ホテル モスクワ

クレムリンから西へ僅か 3 ㎞先、モスクワ川の向こうに高さ 206m のスターリン・ゴシック様式による巨大な摩天楼が姿を現す。この高層建築こそが " 旧ウクライナホテル "、現在の「The Radisson Royal Hotel, Moscow」である。手前の立像は、ウクライナの国民的詩人タラス・シェフチェンコの像

エントランスホールにあるフレスコ画の壮麗な天井画に思わず目を奪われる。ホテル館内は、ウクライナの伝統的な意匠に範をとった内装が特徴的だ

高さ 236 mの巨大なモスクワ大学の建物を筆頭に、1950 年代に七つのビルが建てられ、スターリンの " 七姉妹 " と地元では呼ばれている

正面玄関で正装のドアマンがゲストを迎える。この先にエアポートと同じ検査機があり、所持品のチェックが行なわれる

筆者 小原 康裕
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74 年 Munich Re 入社。85 年築地原健㈱代表取締役。2001 年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。 私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第 2 弾「World's Prestige Hotels世界の名門ホテル」を去年 6 月に発刊いたしました。 独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸甚に存じます。

エントランスホールにある美しいステアケース。歴史的建築の価値を損なわず当時の壮麗な建物を再現した

赤色の制服で対応するエントランスホールにある市内観光案内のアテンダント

ラディソンロイヤルの重厚な正面エントランス

中 2 階回廊から俯瞰したエントランスホール

ロビーラウンジ奥におとぎの国のようなかわいいジオラマが置かれて、重厚なエントランスホールとの対比が面白い

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

The Radisson Royal Hotel, Moscow

クレムリンから西へわずか 3 ㎞先、モスクワ川の向こうに高さ 206m のスターリン・ゴシック様式による巨大な摩天楼が姿を現す。この高層建築こそが " 旧ウクライナホテル "、現在の「The Radisson Royal Hotel, Moscow」（以下、RR/M）である。1953 年から 57 年にかけて建設され、重厚な正面ファサードと、ウクライナの伝統的な意匠に範をとった内装が特徴的だ。エントラン

THE RADISSON ROYAL HOTEL, MOSCOW
ラディソン ロイヤル ホテル モスクワ

ラディソンロイヤルでいちばんの格式を持つ重厚な雰囲気のイラン料理ダイニング「Farsi Restaurant」。巨大なホテルゆえにレストランも充実している

モダンチャイニーズ「Soluxe Club」のにぎわいを見せるオープンエア席

ホテル上層階にあるイタリアン「Buono Restaurant」。明るい店内からモスクワの全景が望める

アルカディー・ノヴィコフ氏が率いるコンテンポラリーな創作料理「Tatler Club Restaurant」

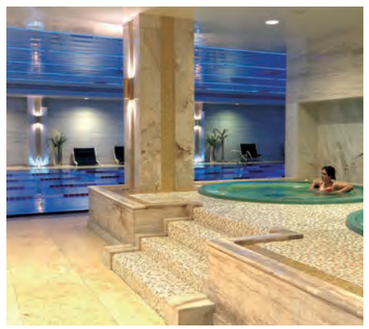
ブレックファスト専用でビュッフェスタイルの「Veranda Restaurant」

約 60㎡の広さを持つ「Executive Suite」のベッドルームからリビングを望む。いかにもロシアのテイストが色濃く感じられるクラシカルな部屋である

「Executive Suite」のベッドルーム。モスクワ川の向こうに官庁街が望める

旧ウクライナホテルのソビエト時代を思い出させるクラシカルなリビング

スパ施設「Royal Wellness Club」のバーコーナー


ジャグジーや本格的なスイミングコースを完備

スホールにあるフレスコ画の壮麗な天井画に思わず目を奪われる。中央部の摩天楼がホテルで、周囲の低層棟はアパートという構成だ。中央棟の前面には広場が整備され、この広場にウクライナの国民的詩人タラス・シェフチェンコの像が立てられた。

モスクワでひと際目立つ建築物、それが“スターリン・クラシック”と呼ばれるビル群である。社会主義リアリズムの表現の一つであり、社会主義の発展と革命の達成を摩天楼で表現し、労働者を鼓舞することを狙ったものとされる。スターリンは、ニューヨークの摩天楼に対抗しモスクワに何十棟もの超高層ビルを建設し、モスクワの風景をニューヨークのマンハッタンのようにするつもりであったと言われる。高さ 236 mの巨大なモスクワ大学の建物を筆頭に、1950 年代に七つのビルが建てられ、スターリンの“七姉妹”と地元では呼ばれている。

RR/M はスターリン・クラシックの旧ウクライナホテルを 3 年の歳月をかけて改修し、2010 年 4 月にオープンした。歴史的建築の価値を損なわず当時の壮麗な建物を再現し、35 階建て 497 室のホテルをよみがえらせた。今回は「Executive Suite」をご紹介したい。約 60㎡のいかにもロシアのテイストが色濃く感じられるクラシカルな部屋で、モスクワ川の向こうに官庁街が望める。巨大なホテルゆえにレストランも充実しており、重厚な雰囲気のイラン料理ダイニング「Farsi Restaurant」、ノヴィコフ氏が率いるコンテンポラリーな創作料理「Tatler Club Restaurant」、モダンチャイニーズ「Soluxe Club」、朝食専用の「Veranda Restaurant」など多彩な陣容を誇る。スパ施設「Royal Wellness Club」は、本格的なスイミングコースやジムを完備している。

RR/M は、まるで国会議事堂のような・スターリン・ゴシック様式の荘厳な外観を持ち、以前は 1000 室あった客室を半分の 497 室に減らしている。結果、全体的に豪華でゆとりの設計となり、長期滞在用のアパートメントも併設された。また、ロビーラウンジ奥におとぎの国のようなかわいいジオラマが置かれて、重厚なエントランスホールとの対比が面白く、クレムリンや赤の広場などの見学に行く予備知識に便利だ。